

あいさつ

地域の独自性の尊重と町民の 多様性や個性を生かすまちづくり

厚真町長
藤原正幸



町民の皆様、新年あけましておめでとうございます。皆様には、ご家族おそろいで希望にみちた新春をご健勝でお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

町民の皆様には、日ごろから町政各般にわたり、深いご理解と温かいご支援を賜り心から厚く感謝申し上げます。

昨年は、国内外を問わずさまざまな出来事がありました。これまで消費者の信頼を得て確かな成長を遂げてきた食品業界においては、その信頼を欺く出来事が後を絶たず、地域ブランドや安全な農畜産物づくりに励んでいる関係者の皆様にとつては誠に残念な結果となりました。

本町の基幹産業である農業では畑作物は平年作となりましたが、水稲は7月の低温により平年を大きく下回り、生産者の努力が報われなかったことは残念でなりません。

また、昨年秋季以降の原油の高騰は国民や町民生活に大きな負担を強いる問題となり、町では町民の皆様への負担の軽減を図るため、昨年暮れに生活応援商品券の取組み支援や高齢世帯などへの灯油代支援を決定し、町民生活の安定に必要な措置を講じてまいりました。

さて、今年の7月に北海道洞爺湖サミットが開催されます。胆振の地で世界が注目する会議が開催されることは、北海道はもとより胆振の地域資源を世界に発信する絶好の機会となつて、地域の発展に大きな貢献が期待されるところであります。また、町内では皆様にご心配とご協力をいただいた公立高等学校配置計画で厚真高等学校が苫小牧東校の地域キャンパス校となることが決定、

さらには大手酒造メーカーのオエノンホールディングス株式会社が北電苫東厚真発電所近くに進出し、平成21年春のバイオエタノールや酒類の生産開始に向けて工場建設が始まりました。こうした明るい話題が町内においていくつもあつたことは非常に喜ばしく、町内の産業・経済にも色々な形で刺激と活気をもたらすものと期待を寄せるところであります。

また、町民の皆様から多くの要望がありました。地域情報通信基盤の整備については、本年、厚真市街地と上厚真市街地周辺を核として周辺地域の整備を行うことになりました。この高速大容量通信によってインターネットなどの通信環境は大きく改善されるとともに、町民生活に豊かさや利便性がもたらされ、新しい情報提供機会の拡大や活用がさらに促進されるところであります。

地方分権時代が本格化する中で、昨年策定した第3次総合計画を着実に推進して行くためには、地域の独自性の尊重と町民の多様性や個性を生かすまちづくりを進める必要があります。少子高齢化社会の到来は財政需要の一層の拡大が予想され、他方では町財政基盤を支える町税や交付税は今後も縮減が避けられない状況にあります。町民の皆様と情報を共有しながら新しい視点と発想のもとに「ものづくり」「人づくり」「地域づくり」がより確かなものとなるように努めるところであります。

どうぞ本年も、厚真町のさらなる発展のため皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。皆様にとりまして、幸多き一年となりますことを祈念申し上げます。年頭のあいさつとさせていただきます。

年頭のご



町民とともに歩む 開かれた議会を目指し

厚真町議会 議長

河村 忠 治

町民の皆さま、明けましておめでとうございます。希望に満ちた輝かしい新春を健やかに迎え、ことと心からお慶び申し上げます。あわせて日ごろからの議会に対する温かいご支援とご協力に對しまして深く感謝を申し上げます。

昨年を顧みますと、一年の世相を象徴する「今年の漢字」に「偽」が選ばれたのを見てもお分かりのとおり、食品偽装問題、年金問題などのニュースが巷を賑わし、明るい話題が少なかった一年であつたように思います。

本町におきましては、記録的な暖冬にはじまり、7月の異常低温、その後は一転しての猛暑と目まぐるしく気候が変わる中、畑作物は平年並みでありましたが、基幹作物の水稲はもともと大事な時期に低温の影響を受け、農家の皆さんはもとより広く町民の期待をも裏切る残念な作柄となつてしまいました。7月前後の天候や台風などによる被災もなかつたことを考え合わせると、ほんの僅かの間の気象条件で明暗が分かれたのであります。しかし、これも水がもつと豊富であればある程度防ぐことができたのではという関係者の声を聞くにつけ、厚幌ダムのいつときも早い完成が待ち望まれるところであります。

また日本ばかりでなく、世界各地で起きている異常気象などを見ても、やはり地球温暖化による影響を否定することはできず、二酸化炭素などの温室効果ガスの削減は急務であります。折しも今年のサミットは、環境問題を最大のテーマとして洞爺湖で開催されることになりました。私たちはこの冬、原油の高騰により寒くて不自由な生活を強いられておりますが、今こそ生活を見直し環境

問題を真剣に考えるまたとない機会ではないかと思ひます。

食糧基地を標榜する我が厚真町にとって、「偽」と「地球温暖化」は将来を展望する上で極めて重要なキーワードであります。環境を守り、安心して安全な食糧を安定して供給することは私たちに課せられた使命であるといつても過言ではありませぬ。「災い転じて福となす」こんな発想の転換こそが、今一番必要なことではないでしょうか。

さて、地方の時代といわれて久しく、今後ますます地方分権が推進されようとしており、自治体の自己決定と自己責任の必要性がさらに高まり、政策形成のあり方が今まで以上に問われる時代となりました。こうした背景の下、私たちは昨年の改選以来、町民の皆さまとともに歩むより開かれた議会を目指し、さまざまな改革に取り組んでまいりました。昨年の10月には初めて議会報告会を開催し、その一端をお知らせしたところであります。本年も4月と10月にこの報告会を実施するとともに、懸案でありましたインターネットによる議会中継システムを町の地域情報通信基盤整備の一環として実施することになりました。

議会といたしましても、今後ともこういったさまざまな媒体による情報発信に努め、皆さまの意見を聞き、小さくとも生きる力に満ちあふれた「農の里あつま」の創造を目指し、町民の皆さまの意思を町政に反映させ、議会活動に積極的に取り組んでまいりる所存であります。

どうか本年も相変わらぬご支援とご協力をたまわりますようお願い申し上げます。町民の皆さまのより一層のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。まして、新年のごあいさつといたします。